

凡 例

●本CD-ROM版近代文学館⑥「太陽」は、博文館発行「太陽」(明治28年1月1日発行第1号(創刊号)より、昭和3年2月5日発行第34巻第2号(終刊号)まで全35冊の全頁を収めた画像データベースシステム(以下本システムと称す)です。使用に際してはWindows95以上のOSの作動するパーソナルコンピュータが必要です。使用に当たっての詳しい使用環境・制限事項は別に設けた説明を参照して下さい。

●本システムは、「太陽」原本の全頁を巻数・頁数順に配列し、パソコン上で閲覧・検索・印刷ができる機能をそなえています。

●本システムは、画像CD-ROM77枚、及び「太陽総目次・執筆者索引」(システムCDおよび書籍)で構成しています。本システムの具体的な使用方法に関しては、別に用意したマニュアルとアプリケーション上に示したオンラインヘルプに譲ることにして、以下に画像および「太陽総目次・執筆者索引」について必要事項を示します。

●本システムは、マイクロ版近代文学館①「新潮」以来の編集方針に基づき、パソコンの利用を前提とし、より広く効果的な文献調査が行えるように配慮しました。すなわちアプリケーション側の機能により、検索用データを使って各項目の並べ替え・検索・絞

り込み検索などが可能です。よって従来の「執筆者索引」の機能をこのアプリケーション側の機能に付加することで、執筆者名のみならず全ての「収録項目」と約4万件のデータの並べ替え・検索・絞り込み検索が可能になりより使いやすいものとなりました。

●なお、「太陽総目次・執筆者索引」(システムCD+総目次、別売可)単体での使用も可能です。「太陽総目次・執筆者索引」(システムCD)には検索用データ、検索用ソフト、画像閲覧ソフトが添付されています。画像CDを購入すれば、そのまま画像を表示することが出来るように作製しました。そして、独立した書誌資料としてより有効に役立つことを目的として、「太陽総目次・執筆者索引」(システムCD)の中には、画像CD収録データを圧縮した画質の「太陽」全35冊の表紙・目次・奥付の画像約二千点を収録しています。この使用に関しては、アプリケーションのマニュアルを参照して下さい。

画像凡例

1. 底本 画像データは、日本近代文学館所蔵本の正本を底本として、文学館が別に所蔵する副本・新規受け入れ本・塩田良平文庫本・瀬沼茂樹文庫本の各号を二冊以上照合した上で、より良い状態の原本を撮影(スキヤニング)しました。近代文学館所蔵本間での照合で差異の判別がつかないものは、神奈川県近代文学館・三康図書館・東京大学法学部付属近代日本法政史料センター(明治新聞雑誌文庫)・金光図書館本を調査して照合しました。その調査作業で、第十巻第一号所載の新年大附録「滿韓新図」が、明治文

庫本で補うことが出来ました。閲覧調査させて頂いた所蔵機関にはこの場を借りてお礼を申し上げます。

2. 照合 複数冊を集めた同一巻号の照合により落丁・乱丁は修正し、頁数の誤りは記事本文と目次を参照の上正し、画像CD-ROMに収めました。

3. 撮影方法 画像は、基本的には、原本から直接スキヤニングをする事を原則としましたが、原本の保存状態を鑑み、一部35ミリマイクロ撮影を施したのち、フィルムスキヤニングしたものがあります。

4. 画像の縮率 撮影(スキヤニング)に際しては、同一縮率(400dpi)形式で撮影し、ディスプレイの初期表示に際しては、生データを縮小して見開き二頁を一コマとして表示するのを基本としました。『太陽』全3冊は三種類の判型で刊行されているため、それぞれの判型によって、異なる縮小率をもって表示しています。

また、折り込みの口絵・目次・広告等は、画面の表示幅に合わせて縮小して表示することを原則とし、A3以上のスキヤナに収まらないコマは分割して撮影しました。その際、重複部分をそれぞれに残して繋がりが分かるように配慮しました。また、折り込み頁は原本の状況が判別できるように、原本をめくる順序を想定して撮影しました。

5. 原本の大きさの違い 近代文学館正本を基本とし、副本で補うことを原則としたため、同一巻号中に画像の大きさの異なる頁があります。これは、撮影原本が合本であるか一冊本であるか、ま

た、通常のフラットベッド式のスキヤナを使用したか、ブックスキヤナを使用したかによる違いであり、撮影倍率の違いではありません。(多くは文学館の正本(合本)をフラットベッド方式のスキヤナで撮影したため、ノドがよく開き左右は大きく、天地は原本より小振りです。それ以外は、ブックスキヤナを使用したため、ノドの開きが狭まり、天地は原本どおりとなっております。同一巻号中で、大きさが異なって見える場合もありますが、原本保持の処置としてご了承下さい。)

6. 画像の質 撮影に当たっては、白黒二値方式(所謂コピーの文字モード)を基本としましたが、広告頁の色紙と口絵など色刷りリンクの組み合わせコマで、白黒二値方式で判読できない頁は、階調のあるグレースケールモード(コピーの写真モード)の画像としました。(グレースケールモードは白黒二値モードのデータに比して、データ量が多く、コマの表示に時間がかかります。)

7. 画像の質II 第七巻第一号以降、通常号の表紙は多色刷となります。白黒二値モードでは再現できない図柄に関しては、適宜カラー画像を補いました。(カラー画像の有無は、ツールバー中の切手マークボタンがハイライトすることでその所在を示しました。)

巻号漢字	内容	発行年月日
第三巻第二号	増刊号表紙 博文館創業十周年記念臨時増刊	明治30(一八九七年)6月15日
第四巻第九号	増刊号表紙 萬葉三十年	明治31(一八九八年)4月28日
第五巻第二号	増刊号表紙 明治十二傑	明治32(一八九九年)6月15日

第六巻第一四号	増刊号表紙	世界一周	明治33(一九〇〇年)11月3日
第八巻第一号	通常号表紙		明治35(一九〇二年)1月5日
第八巻第八号	増刊号表紙	海之日本	明治35(一九〇二年)6月15日
第八巻第九号	通常号表紙		明治35(一九〇二年)7月5日
第九巻第七号	増刊号表紙	陸の日本	明治36(一九〇三年)1月1日
第一〇巻第三号	通常号表紙		明治36(一九〇三年)6月15日
第一〇巻第九号	増刊号表紙	演劇大観	明治37(一九〇四年)1月1日
第一〇巻第一五号	増刊号表紙	日露海戦史	明治37(一九〇四年)6月15日
第一巻第二号	通常号表紙		明治38(一九〇五年)1月1日
第一巻第九号	増刊号表紙	世界之帝王	明治38(一九〇五年)6月15日
第二巻第一号	通常号表紙		明治39(一九〇六年)1月1日
第二巻第九号	増刊号表紙	戦時経営	明治39(一九〇六年)6月15日
第三巻第二号	通常号表紙		明治40(一九〇七年)1月1日
第三巻第九号	増刊号表紙	明治名書集	明治40(一九〇七年)6月15日
第三巻第一五号	増刊号表紙	外人の日本観	明治40(一九〇七年)11月3日
第四巻第一号	通常号表紙		明治41(一九〇八年)1月1日
第四巻第三号	増刊号表紙	黄白人の衝突	明治41(一九〇八年)2月15日
第四巻第九号	増刊号表紙	現代之趨勢	明治41(一九〇八年)6月15日
第四巻第一五号	増刊号表紙	現代の代表的人物	明治41(一九〇八年)11月15日
第五巻第一号	通常号表紙		明治42(一九〇九年)1月1日
第五巻第三号	増刊号表紙	文芸史	明治42(一九〇九年)2月20日
第五巻第九号	増刊号表紙	新進二十五名家	明治42(一九〇九年)6月15日
第五巻第一五号	増刊号表紙	伊藤博文公	明治42(一九〇九年)11月10日
第六巻第一号	通常号表紙		明治43(一九一〇年)1月1日
第六巻第九号	増刊号表紙	一等国	明治43(一九一〇年)6月15日
第六巻第一五号	増刊号表紙	日英大博覧会	明治43(一九一〇年)11月20日
第六巻第二五号	増刊号表紙	日本民族の膨張	明治43(一九一〇年)11月10日

第七巻第一号	通常号表紙		明治44(一九一一年)1月1日
第七巻第三号	増刊号表紙	現代社会概観	明治44(一九一一年)2月15日
第七巻第九号	増刊号表紙	列強外交時局	明治44(一九一一年)6月15日
第七巻第一五号	増刊号表紙	戦争と平和	明治44(一九一一年)11月15日
第八巻第一号	通常号表紙		明治45(一九一二年)1月1日
第八巻第三号	増刊号表紙	革命及び革命的運動	明治45(一九一二年)2月15日
第八巻第九号	増刊号表紙	雄飛廿五年	明治45(一九一二年)6月15日
第八巻第一三三号	増刊号表紙	明治聖天子	大正1(一九一二年)9月10日
第八巻第一四号	口絵	明治天皇肖像	大正1(一九一二年)10月1日
第九巻第一号	通常号表紙	御大葬紀念	大正1(一九一二年)11月1日
第九巻第四号	増刊号表紙	大正維新之風雲	大正2(一九一三年)3月15日
第九巻第九号	増刊号表紙	返時之婦人問題	大正2(一九一三年)6月1日
第九巻第一五号	増刊号表紙	南進乎北進乎	大正2(一九一三年)11月15日
第一〇巻第一号	通常号表紙		大正3(一九一四年)1月1日
第一〇巻第八号	増刊号表紙	内閣組織と政党	大正3(一九一四年)6月15日
第一〇巻第一五号	通常号表紙		大正3(一九一四年)11月1日
第一巻第一号	通常号表紙		大正4(一九一五年)1月1日
第一巻第八号	増刊号表紙	御大禮盛儀	大正4(一九一五年)6月15日
第一巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一号	通常号表紙		大正4(一九一五年)1月1日
第二巻第八号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第三号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)6月15日
第二巻第九号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第一五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二巻第二五号	口絵	大正御即位式(絵画)	大正4(一九一五年)11月15日
第二			

第二卷第八号	口絵 萬歳菜と太玄菜(*絵圖)	大正4(一九一五年)6月15日
第二卷第八号	口絵 五節舞圖(*絵圖)	大正4(一九一五年)6月15日
第二卷第八号	口絵 御即位礼大嘗祭講義服裝圖(*絵圖)	大正4(一九一五年)6月15日
第二卷第八号	口絵 本文挿圖(御服)	大正4(一九一五年)6月15日
第二卷第四号	増刊号表紙 御大社記念	大正4(一九一四年)11月25日
第二卷第一号	通常号表紙	大正5(一九一五年)1月1日
第三卷第八号	通常号表紙 世界及東局と日本	大正5(一九一五年)6月15日
第三卷第七号	通常号表紙 日本と世界	大正6(一九一六年)6月15日
第三卷第一号	通常号表紙 世界の構造	大正7(一九一七年)1月1日
第四卷第八号	増刊号表紙 世界の構造	大正7(一九一七年)6月15日
第五卷第一号	通常号表紙	大正8(一九一八年)1月1日
第五卷第八号	増刊号表紙 世界大戦	大正8(一九一八年)6月15日
第六卷第二号	通常号表紙	大正9(一九一九年)2月1日
第六卷第七号	増刊号表紙 世界不安	大正9(一九一九年)6月15日
第七卷第一号	通常号表紙	大正10(一九二〇年)1月1日
第七卷第八号	増刊号表紙 不老長生の研究	大正10(一九二〇年)6月15日
第七卷第一号	通常号表紙	大正10(一九二〇年)9月1日
第八卷第一号	通常号表紙 皇室之光輝	大正11(一九二一年)1月1日
第八卷第八号	増刊号表紙	大正11(一九二一年)6月15日
第九卷第一号	通常号表紙 日本山水大観	大正12(一九二二年)1月1日
第九卷第八号	増刊号表紙	大正12(一九二二年)6月15日
第十卷第四号	通常号表紙 最新保険之研究	大正13(一九二三年)1月1日
第二卷第八号	通常号表紙	大正13(一九二三年)6月15日
第三卷第八号	増刊号表紙 世界の驚異	大正14(一九二四年)1月1日
第三卷第一号	通常号表紙	大正14(一九二四年)6月15日
第三卷第六号	増刊号表紙 新法令	大正15(一九二五年)5月25日

第三卷第八号	増刊号表紙 自然美の日本	大正15(一九二五年)6月15日
第三卷第八号	通常号表紙	昭和2(一九二六年)1月1日
第三卷第四号	通常号表紙	昭和2(一九二六年)4月1日
第三卷第八号	増刊号表紙 明治大正の文化	昭和2(一九二六年)6月15日

8. 著作権に関して C D R O M 版太陽の画像データの編集・製作に当たっては、著作権継承者の了解を得、原本発行の博文館の許可を得て刊行している。しかしながら、著作権継承者が不明であったり、または現在も連絡をとるため鋭意努力しております。著作権継承者に関して、何らかの情報をご存知の方はお手数ですが八木書店までご連絡をいただければ幸いです。

なお、以下に閲覧・作製上の問題点を掲げます。

第一巻第一号(明28・1・1) 背文字は「太陽 第一号 廿八年一月五日発行」となっており、「第一巻」の表記はない。巻数表示が加えられるのは「第二巻第一号」からである。さらに第八巻第一号には年号に「明治」と元号が冠せられ以下継続する。しかし、今回の照合過程では、原本が合冊されているものもあり、全ての巻号、全五三二冊にわたって照合することは出来なかった。

間 目次頁と口絵「現内閣大臣肖像」の間にパラフィン紙が挿入されている。

第一巻第五号(明28・5・1) 英文三頁に印字の不良部分がある。確認した諸本のすべてが同様だったので、最善の原本を撮影した。以下、印字のカスレ、ブレ等原本の印刷不良箇所については同様の処置を採った。

第三巻第一号(明30・1・5) 表紙の「写真銅版目次」中に「新

年大附録」として瀧和亭翁筆「長春孔雀図」「海濤白鶴図」の記載があるが、諸本の調査でも発見できなかった。

第四巻第一号(明31・1・5) 目次に「大附録」として「明治立

身双六」の記載があるが、諸本の調査でも発見できなかった。

第四巻第六号(明31・3・20) 近代文学館本正本は、広告頁庚三から庚六の四頁があり、庚一・庚二はない。諸本の調査でも発見できなかった。

第五巻第二十一号(明32・9・20) 目次に「海外事情 東洋 清国 経済一斑」とあるが、諸本の調査で本文中に該当箇所はなく、頁数・記事の繋がり方も異状は認められなかった。

第八巻第一号(明35・1・1) 目次に「虎の名画 直相相阿弥／元信／松栄／直庵／洞雲／応挙／蘆雪／岸駒／狙仙／岸良／華山／梅閑」とあるが、諸本の調査で発見できなかった。

第八巻第七号(明35・6・5) 表紙に「六号」とあるのは、「七号」の誤植。なお「六」の上に紙を貼り、「七」と筆書した事例もあったが、版元の処置か否かは不明。

第十一巻第四号(明38・3・1) 表紙に「三号」とあるのは、「四号」の誤植。

第十三巻第一号(明40・1・1) 目次に「新年大附録」として「東洋未来双六 岡野栄・中沢弘光・小林鐘吉」の記載があるが、諸本の調査でも発見できなかった。

第二十一巻第八号(大4・6・15) 目次に「聖寿無疆」の記載があるが、本文中になく諸本の調査でも発見できなかった。

第二十四巻第四号(大7・4・1) 十二頁と十五頁の間に、「第十

三頁第十四頁 削除」の紙片が挿入されておりそのまま写した。調査した各本とも同じである。

なお、広告頁は、前付・後付の位置は諸本に大きく乱れることはないが、本文中の差し込み位置は、同じではないものが散見される。多くは製本過程中の丁合の段階で生じたものと類推される。また、同一広告頁であっても用紙の色・質が異なる例も少なくなかった。

検索用データ凡例

目的 本データは、C D R O M 版「太陽」検索のために作製したが、同時に独立した「太陽」の書誌データとして利用できるよう編集しました。

収録範囲 博文館発行「太陽」明治28年1月1日発行第1号(創刊号)から昭和3年2月5日発行第34巻第2号(終刊号)までの全53冊の本文記事の見出し語および署名を採ることを原則とし、当該号の目次を参照しました。なお、広告頁は原則として目次に採らなかつたが、「太陽」自体の次号予告などが広告頁にある場合は、採録することにしました。

収録項目 各記事は以下の各項目に適宜振り分け、必要な事項を当てはめて記した。即ち【発行年月日】【巻号数】【巻号見出し(特集号名)】、および【分類+総題】【個別題】【細目】【執筆者名】【頁分類】【開始頁】の各項目である。以上の9項目に、【参考執筆者名よみ】【ユーザメモ欄】の二つを付した11項目が、一記事のデータとな

っています。各項目の詳細に関しては本文末の収録項目の説明を参照して下さい。

用字 JIS規格の通行の書体を使用することにしました。JIS第2水準に含まれない文字に関しては、その音をカタカナ表記にして●で挟んで表記することを原則としました。

【例】里見弾↓里見●トン●
詳細は「総目次」で当該文字を参照してください。

題名の採り方ー 本文① 本文見出しから採ることを原則とし、目次・表紙を参照した。その際、本文見出しと目次の異同に関しては触れなかった。

題名の採り方ー 本文② 記事に題名のない場合は、担当者が()に括り一般的な分類・内容を付した。なお、記事の注記として(＊)を使用した。

題名の採り方ー 英文 本文表記にしたがった。また目次に日本語訳のあるものは注記として記したものである。

収録項目の説明

【発行年月日】【巻号数】奥付の記載を採ることを原則とした。

【巻号見出し】 増刊号名、及び特集名を採った。

【収録画像CD-ROMナンバー】収録されている画像CD-ROMのナンバーを記載した。

【分類+総題】原則として第十六巻までは、目次に示された政治・経済・文苑などの分類を収め、第十七巻以降は、同一巻号中の特集題名、および連載題名などを採った。

など

いしぐろただのり

石黒忠憲・石黒況翁・石黒軍医総監・石黒総監・石黒況斉・石黒男爵など

【執筆者名】欄では、原本の表記とおりの採録を原則としたため、本名・雅号などの使い分けのある同一人物を【執筆者名】欄で一度に検索することが出来ません。それを補う項目としてこの【参考執筆者名よみ】を設けました。

歴史上著名な人物に関しては可能な限りの文献調査を行い同一のよみを記すよう心がけましたが、『太陽』の執筆者の裾野は広大で、全ての執筆者名に関してその読み方に正確を期すことは不可能です。

本編集委員会でも執筆者名のよみを公開することは賛否の別れるところでした。しかし、人名に関する検索の便を考え、この項目は必須と判断しました。その為、ユーザによる訂正を可能にすることで、より精度が高く利用してもらえる事を選びました。また、この種の完璧とはいえないデータでも広く公開することで、より多くの知見に供し、利用者にご教示いただき、今後開設する八木書店のインターネットサイトで公開していただくことで、より正確なデータを共有できると考えています。(pub@books-yagi.co.jp宛にお願ひできれば幸甚に存じます)

【ユーザメモ欄】総目次に書き込みをするような感覚で自由に記入することの出来る項目。

【個別題】記事の固有の見出しを採った。しかし特集名でなく複数の執筆者がそれぞれ執筆しているような場合、及び時事・時報・兼報のように毎号掲載されるもので、複数の小見出しが並び、執筆者名の明確でないものは、【分類+総題】に、個々の小見出しは【細目】に採り【個別題】が無い場合もある。

【細目】題名からでは内容の類推がしにくい記事に関しては、適宜記事中の小見出しを採って記した。また、採録者による特記事項を記すためにこの項目を使用した場合がある。

【執筆者名】記事本文に記された執筆者名表記をそのまま採った。談話記事などで「文責記者」となっている場合は談話者の姓名を採ることを原則とした。漢詩・和歌・俳句などで撰者・編者が原本に示されているものは、撰者・編者名のみ採り、個々の執筆者名は適宜【細目】欄に採った。挿画の作者名はネーム・目次に記載のないものでも挿画中の落款・サインから特定できるものは採るよう努めた。

【頁分類】表紙・目次・口絵・別・英文・奥付などに頁を分類した。本文頁は未記入とした。

【開始頁】各記事の始まりの頁の数字を記した。

以上9項目は、アプリケーション上での加除訂正は出来ませんが以下の2項目に関しては、加除訂正ができます。訂正の方法はマニュアルを参照して下さい。

【参考執筆者名よみ】執筆者名の通行の呼び方を記した。

例 つばうちしょうよう 坪内逍遙・坪内雄三・春の屋主人

総目次凡例

本書は、検索用データを基礎データとして、前述の各項目を従来の目録の組版体裁を踏襲した新たな電算写真植字機出力プログラムを元に製版しました。そのため、基本的には検索用データと同一です。したがって本書の凡例は基本的に検索用データの凡例と同一です。

目録用データは閲覧性を重視し、検索用データはパソコン上での利用を鑑みた加工を施しました。最大の違いは【細目】【参考執筆者名よみ】の二つの項目が総目次でのデータに反映されていないことです。